



—東地中海・北アフリカ地域ニュース—

アルジェリア：中央銀行による2011年決算報告

(2日付現地各紙)

2日付現地各紙は、1日、アルジェリア中央銀行が2011年の決算報告書を公表したことを報じている。

- 1日、アルジェリアのハッサール中央銀行副総裁と顧問らは、2011年の中央銀行報告書を公表、同年の経済指標について報告を行った。同副総裁は、同年の指標としては経済成長・予算状況ともに安定的であるとしつつも、同国の経済成長が公共支出によってもたらされたもので、その支出も炭化水素税による収入に依存していることから、「国家経済は依然として脆弱である」と指摘した。
- 同報告書によれば、2011年はGDP成長率2.4%、国際収支200億ドル（2011年石油価格が1バレル=112.94ドルと安定傾向にあったため）で、前年比40.9%上昇、経常収支197億ドル、国庫支出951億アルジェリアン・ディナール（DA、46.6%低下）、対外債務44億ドル（22.5%減少、GDPの2.2%に相当）。投資額成長率が2010年の7.0%から3.1%に低下したことを受け、国内支出成長率は2010年の4.9%から2011年の3.7%に鎮静化。その他、消費者物価指数は4.1%、年間インフレ率は5.7%。外貨準備高は、2011年末時点で1,822億ドル（38カ月分の輸入額に相当）。また、国家予算の均衡性を保つには、石油価格が110~115ドルであることが必要なようである。
- 炭化水素収入は、3兆9,800億DAで前年比37%増、2011年の炭化水素税は予算計上額より2.5倍多いものの、同収入は全体予算支出の69.4%を占めるため、同銀行のベンベルカセム氏は、「公的資金捻出の脆弱性は依然として浮き彫りになったままである」と指摘し、炭化水素に代わる収入源を見つける必要があると警鐘を鳴らした。また、マンスーリ氏は、アルジェリアの対外財政状況は「歴史に残る成果が得られている」と述べた一方、炭化水素分野以外の輸出実績に欠けていると強調。対外債務については、2004年以降、徐々に減少傾向にあり、2011年末時点で45億ドル。短期債務、中長期債務ともに減少（短期は11億ドル、長期は32億ドル）したことにより、全債務額も減少。

◎本「かわら版」の許可なき複製、転送、引用はご遠慮ください。

ご質問・お問合せ先 公益財団法人中東調査会 TEL:03-3371-5798、FAX:03-3371-5799